

## 普及活動情勢報告

情勢報告（平成30年2月分）

須崎農業振興センター高南農業改良普及所

ナバナの品質向上に向けて ～JA高知はた十和地区ナバナ出荷目慣らし会の開催～



参加者の様子

1月29日、JA高知はた十和支所で目慣らし会が開催され、生産者36名が参加しました。

JAからは、出荷資材の変更や色目を揃えること、箱詰めの方法についての説明がありました。園芸連からは、昨年から取り組んでいる加工用の出荷要請などがありました。生産者からは、厳寒期の寒さ対策や、加工用の出荷方法などの質問が出されました。

普及所は、初期生育の促進やべた掛け資材の紹介、農薬の適正使用について注意喚起を行いました。ナバナは北幡地域の冬場の主要な露地野菜ですので、今後もJAと連携して生産振興に取り組んでいきます。

窪川地域の郷土料理の伝承 ～高知城歴史博物館 日曜日料理教室～



料理の作り方の説明を受ける参加者ら

1月28日、高知城歴史博物館で日曜日料理教室が開催されました。県内各地の郷土料理人が講師となり、一般の参加者と郷土料理を作る料理教室で、今回は高南地区農漁村女性グループ研究会7名が講師となり、窪川地域の食材を使った大豆ご飯、四万十ポークの生姜焼き、ニラの白和え、里芋バーグなどを作りました。

参加者からは、「どの料理もおいしかった」「ニラの白和えを今晚、家で作ってみる」と言った多くの感想を聞くことができました。

今後も農漁村女性グループが取り組む食文化の伝承活動への支援を行っていきます。

女性農業者の学びの場 ～はちきん農業大学 現地研修会の開催～



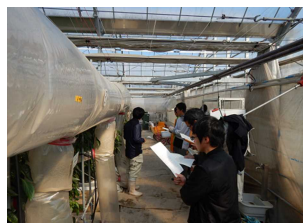
高軒高ハウスで栽培されているトマトを視察

1月29日、はちきん農業大学の高南地区現地研修を開催し、女性農業者7名が参加しました。

現地研修では、次世代型の施設園芸の取組みとして四万十町次世代団地でトマトを生産している(株)ベストグロウを見学し、その後、農業担い手育成センターで新規就農の取組みや、宿泊施設の見学を行いました。参加者からは「外に目を向ければ同じ農業というジャンルでも様々な形での取組みがあることを知ることができた」など多くの感想をいただきました。

普及所では、来年度も女性農業者のニーズを反映させたはちきん農業大学講座を開催していきます。

### 先進技術を学ぶ ～JA四万十ピーマン部会 視察研修の開催～



視察研修の様子

2月8日、JA四万十ピーマン部会が農業担い手育成センターの視察を行い、生産者5名が参加しました。

農業担い手育成センターでは、職員から仕立て方法、炭酸ガス施用下での管理方法や病害虫防除などの説明がありました。生産者からは、「春以降の炭酸ガス施用はどのようにするのか？」などの質問があり、熱心に先進技術を学んでいました。

普及所は、管内で炭酸ガスを施用しているモデル農家の増収効果などについて報告しました。

普及所は、今後もJAと連携し、環境制御技術の普及を進めていきます。

### 拠点となる3法人への事業戦略の策定支援～複合経営拠点課題解決ワークショップの開催～



経営コンサルタントからの助言を受けながら事業戦略を検討

1月23日、普及所会議室で拠点となる3法人を対象に、中山間農業複合経営拠点課題解決ワークショップを開催し、法人役員など農業者10名が参加しました。

普及所は3各班に分かれ、問題課題の整理や行動計画、達成プロセスを図式化した戦略マップづくりなど事業戦略の策定に向け助言指導しました。

法人役員などからは、法人の経営だけではなく「地域を守るために今しておかないと今後できなくなる」「他の組織との連携が重要」などの意見も交わされました。

普及所は、今後も複合経営拠点を中心に集落営農組織と連携しながら地域を守っていく仕組みづくりを支援していきます。

### JA四万十生産組織代表者と意見交換 ～農業振興意見交換会の開催～



意見交換の様子

1月26日、四万十農協会館大ホールで県農業振興部職員とJA四万十生産組織代表者として意見交換会を開催し、生産組織代表者14名とJA、役場の関係職員など計56名が参加しました。

生産組織代表者からは、ショウガでは、地域外からの労働力確保の取組みを開始したが宿泊施設の確保などが課題となっていることや、ニラでは、環境制御技術の導入により収量アップの効果が得られ販売額が向上していること、ミョウガでは、土耕から養液栽培へ転換を進めていることなどの報告や意見が出されました。

普及所は、今後も農業者の営農の現状や課題を把握し、地域に即した技術普及や経営発展への取組を支援していきます。

